

2. 人材を育てる 科学コミュニケーターの養成

科学を伝える人材としての科学コミュニケーターの養成と、彼らが社会で活躍するための場づくりを積極的に推進しています。

■「日本科学未来館科学コミュニケーター」とは

私たちが掲げる目標は、世界中の人々がお互いを尊重しつつ、豊かに暮らしていける持続可能な社会を構築すること。そのためには、一人ひとりが理論と実証に基づく科学的な視点を持つこと、すなわち科学を世界中の人々が共通に持つ文化のひとつとすることが必要です。このような「科学を文化にする」ための、社会の様々な場面で行われる活動が科学コミュニケーションであり、科学コミュニケーターはその担い手となります。

■OJTによる人材養成と研修

未来館が展開する日々の活動に業務として携わること(OJT)をとおして基礎力の研鑽と応用力の強化を図りました。さらに、科学コミュニケーション理論の深化や視野の拡大、発想力の強化などをめざした研修や館内インターンシップの実施により、各人のキャリアパスを意識した業務体験の機会も充実させました。

●内部研修実施一覧

(講師名等敬称略)

日程	講義内容	講師名
4月2日～4月26日、 1月2日～1月24日	入社時 SC基礎研修 SC実地研修	池辺靖、富田知宏、濱亜沙子、山本広美、 他(日本科学未来館)
4月15日、 1月20日	ロジカルコミュニケーション	宮負敦(株式会社バンネーションズ・ コンサルティング・グループ)
4月23日、 1月17日	発声(ナレーション)	野口きいこ (株式会社総合教育コンサルティング)
6月22日	科学コミュニケーション理解	毛利衛、竹内恵、橋本裕子、池辺靖、 他(日本科学未来館)
6月29日	入社後フォロー 未来館ブランド研修、対話活動振り返り等	石川泰彦、藪本晶子、越智響、 他(日本科学未来館)
7月13日	ファシリテーション研修(基礎)	橋本裕子、山本広美(日本科学未来館)
9月14日	プレゼンテーション研修	釋左枝(株式会社インソース)
10月9日、16日、23日、 11月6日、9日、13日、27日	ライティング研修(全6回)	引野肇(中日新聞 電子メディア局)
11月9日	アンケート調査研修	野口朋子(日本科学未来館)
11月9日	メディア制作研修	楠見春美、藪本晶子(日本科学未来館)
12月6日	インタビュー研修	上野啓子(株式会社インタービスタ)
12月21日	プロジェクトマネジメント研修	鬼木陸男(株式会社アイシंक)
1月25日	企画立案、映像制作基礎研修	林勝彦(東京工業大学)、 村田豊彦(株式会社映像開発)
2月1日	ファシリテーション研修(応用)	彦田友治(株式会社グローバル・ソフト・ コミュニケーション)
2月15日	科学コミュニケーション理解	毛利衛、中島義和、小中元秀、林部尚 (日本科学未来館)



●サイエンス・クロスロード(外部講師招へい)

(講師名等敬称略)

日程	講師名	講義内容(タイトル)
4月14日	鈴木健(株式会社サルガッソー)	情報技術で世の中をバージョンアップしてみよう
11月22日	佐貫俊幸(日本アイ・ピー・エム株式会社)	IBMが見つめる未来 ～より賢い地球をめざして～
3月7日	阪本成一(独立行政法人宇宙航空研究開発機構)	「はやぶさ」、そしてその先へ
3月30日	鈴木幸一(国立感染症研究所ハンセン研究センター)	放射線が人体に及ぼす影響について
3月31日	中村 隆司(東京工業大学大学院)	放射線科学の基礎知識について

■2010年度の未来館科学コミュニケーター輩出の実績

輩出先業種	大学・研究機関等	科学館・博物館等	企業	その他	計
人数	5名	2名	1名	6名	14名

※開館から2011年末までに14名の科学コミュニケーターを輩出しています。

〈担当スタッフ〉

永田順子、新井真由美、田中園子、濱亜沙子、山口史恵、白根純人

2. 人材を育てる 科学コミュニケーター外部研修

外部向けの科学コミュニケーター育成プログラムとして、数日間の短期研修と、1年にわたる長期研修を実施しています。

■短期研修

●カリキュラム

各講座とも、[グループワーク+演習+ディスカッション]形式で3つのスキルを体系的に学びます。

情報コーディネーション講座 科学技術を分析する視点の深化	プレゼンテーション講座 プレゼンテーションスキルの向上	ファシリテーション講座 科学コミュニケーションの構築力の強化
・科学情報を論理的に評価する ・情報の社会的価値について考える	・プレゼンテーションの意義を考える ・話す人を観察する	・コミュニケーションの阻害要因を理解する ・ファシリテーターの役割を考える
・科学記事作成	・プレゼンテーション構成と発表	・科学コミュニケーション企画の立案
・総括ディスカッション 【講座と自分自身の活動をつなぐ】	・総括ディスカッション 【講座と自分自身の活動をつなぐ】	・総括ディスカッション 【講座と自分自身の活動をつなぐ】



●2010年度受講生内訳

	小中高教員	広報担当者	研究者 (大学教員、 企業研究員等)	博物館・ 科学館職員	NPO/ 公的機関職員	その他	合計
情報コーディネーション講座	12人	7人	9人	4人	2人	21人	55人
プレゼンテーション講座	15人	7人	9人	5人	2人	23人	61人
ファシリテーション講座	13人	8人	10人	6人	2人	21人	60人

※「科学コミュニケーター研修プログラム」は、教員免許状更新講習として文部科学省から指定を受けています。のべ176名の受講者のうち24名が教員免許状更新講習対象者です。

■長期研修 (1年コース)

埼玉県教育委員会より高校教員(2名)、一般公募より1名を受入れました。日々の実践を通じて科学コミュニケーションの意義を理解し科学コミュニケーターとしての総合力を高めると共に、研修後も自身の活動に還元可能な企画の開発に取り組みました。

●研修テーマ

①「科学コミュニケーションのための実験教室等の実践手法開発と評価」

友の会会員向け実験教室「バイオ初級DNAコース」を対象別に改良、実践。「親から子に伝わるものとは？」を共通テーマに、発育段階に合わせた課題を設定することで、より効果的なプログラムになりました。

②「教員と研究機関のネットワーク構築」

教員のネットワーク構築を目指して、科学教育や教員研修の現状を調査するとともに、若手教員の研鑽機会向上や研修手法の開発・情報共有をねらいとしたメーリングリストの設立と教員研修の実践を行いました。

③「学校と研究機関等における連携と活用について ～先端科学技術研究の情報発信と伝達手法の研究～」

中高生向け学習プログラムの実践とともに、新規開発を行いました。「職場体験プログラム」は職業観の習得に留まらないキャリア教育的観点を重視。エネルギー分野の「学習プログラム」は研究者と共同開発しました。



〈担当スタッフ〉

山本広美、二瓶亜三子、橋本裕子、池辺靖、石川泰彦、岡山悠子、豊田倫子、蓮沼一美、菅野治虫(長期研修生)、大沼潤一(長期研修生)、井上仁(長期研修生)